

心肺蘇生法

救命処置の流れについて学ぼう

1 反応を確認する



肩をたたいて大声で呼びかける。
反応があれば観察を続ける。

2 助けを呼ぶ



反応がなければ周囲に助けを求め、「119番通報」と「AEDを持ってきてください」と要請する。

3 気道の確保



頭を下げてあごを持ち上げ、
空気が肺に通りやすくする。

4 呼吸の確認



普段どおりの息をしているかどうか
を確認する。

5 人工呼吸



普段どおりの息がなければ、鼻をつまみ、口から息をゆっくり吹き込む。様子をみながら2回行う。

6 胸骨圧迫



人工呼吸を2回行ったら、両手を重ねて胸の真ん中を「強く・早く・絶え間なく」30回圧迫する。

7 心肺蘇生法の実施



人工呼吸2回・胸骨圧迫30回の組み合わせを、
救急隊に引き継ぐまで絶え間なく続ける。
AEDが到着したら、AEDを使用する。



AED

5 電気ショック



6 心肺蘇生法を再開



ただちに胸骨圧迫を再開。

1 AEDが到着したら横に置く

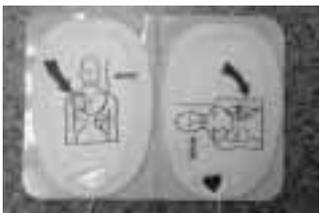


2 AEDの電源を入れる



音声メッセージとランプで実施すべき内容が指示されます。

3 電極パッドを貼る



4 心電図の解析



「皆さん、離れて」



救命講習を受講してください

7月4日(土)、成羽小学校PTA 25人を対象に、心肺蘇生法とAEDの使い方を学ぶ普通救命講習が行われました。

「夏休みのプール監視をPTAで行うので、子どもたちの安全のため、毎年この時季に講習をお願いしています」と同PTA補導部長の西江正行さん。また、「この講習を生かして、いざというときにパニックにならないようにしたい」と話すのは、初めて参加した長尾宏美さん。

市消防本部警防課では、こうした救命講習を実施しています。上級コース(8時間)、普通コース(3時間)のほか、1時間程度の簡易なコースもありますので、詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ 市消防本部警防課 (TEL)0124